

なかはら こっこうげんぼく
「中原のりんご国光原木」

- 指 定 千曲市指定天然記念物 平成6年3月31日
- 所 在 地 千曲市市大字八幡字古屋敷 461 番 4
- 所 有 者 個人
- 概 要 栽培植物の原木
寸法 地上1mの幹囲1.69m、主幹1.5m、樹高約3.0m
樹幅：東西7.8m、南北5.0m
- 時 代 植栽は明治12年(1879)～同中期
- 公 開 畑内にあるので、作物などを踏み荒らさないでください

この樹木は、個人所有の果樹園内で栽培されている樹齢約130年のリンゴ樹で、主幹から分岐した2本の主枝は斜め上方へ伸び、5.0～7.8mの拡がりをもつ樹冠を形成して、往時は栽培リンゴの典型的な半円形仕立てであったことを示しています。台木にミツバカイドウを用いて「国光」を接いだもので、各枝の先端部には「富士」が接ぎ木されていますが、太い枝からは年々国光が伸長し剪定されています。

主幹の大部分を占めていた心材は、菌類による腐植が進んで空洞化し、木部の周辺と樹皮からなる厚さ3～4cmの脆い幹となって上を支えています。

長野県内最古の栽培リンゴ樹であり、他に例をみないものです。長野県リンゴ生産量が全国第2位に成長した、果樹発達史上記念すべき存在であると共に、リンゴ技術発達の全過程を生き抜いてきたことを象徴する学術上貴重な標本的老樹でもあります。

